

演習問題 1.38

数学的帰納法により、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せ。

【 凸関数に関する不等式 】

$$f(\lambda a + (1-\lambda)b) \leq \lambda f(a) + (1-\lambda)f(b) \quad \cdots (1.114)$$

ここで、 λ のとり得る範囲は、 $0 \leq \lambda \leq 1$ である。

【 イェンセンの不等式 】

$$f\left(\sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \quad \cdots (1.115)$$

ここで、 $\lambda_i \geq 0$ および $\sum_i \lambda_i = 1$ である。

【 解 】

数学的帰納法を用いて、凸関数 $f(x)$ に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示す。

(i) $M = 1$ のとき、 $\lambda_1 = 1$, $x_i = a$ とおけることから、

$$\text{式 (1.115) の左辺} = f\left(\sum_{i=1}^1 \lambda_i x_i\right) = f(\lambda_1 x_1) = f(a)$$

$$\text{式 (1.115) の右辺} = \sum_{i=1}^1 \lambda_i f(x_i) = \lambda_1 f(x_1) = f(a)$$

となり、式 (1.115) は満たせた。

(ii) $M = k$ のとき、式 (1.115) が成り立つと仮定すると、 $M = k + 1$ のとき、式 (1.115) の左辺は、

$$\begin{aligned} \text{式 (1.115) の左辺} &= f\left(\sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i x_i\right) \\ &= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + \sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \end{aligned}$$

ここで、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1-\lambda_{M+1}}$ とおくと、上記の式は、

$$= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + (1-\lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

となる。上記の式は式 (1.114) において、 $\lambda = \lambda_{M+1}$, $a = x_{M+1}$, $b = \sum_{i=1}^M \eta_i x_i$ に対応することから、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1-\lambda_{M+1}) f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

... ※

となる。ここで、仮定より、

$$f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

が成り立つので、式 ※ は、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

となり、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}}$ だから、

$$\begin{aligned} &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}} f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \frac{1}{1 - \lambda_{M+1}} \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i f(x_i) \\ &= \text{式 (1.115) の左辺} \end{aligned}$$

よって、 $M = k + 1$ のときも式 (1.115) は成り立つ。

以上 (i), (ii) より、数学的帰納法において、 $M \geq 1$ の整数において、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せた。

演習問題 1.38

数学的帰納法により、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せ。

【 凸関数に関する不等式 】

$$f(\lambda a + (1-\lambda)b) \leq \lambda f(a) + (1-\lambda)f(b) \quad \cdots (1.114)$$

ここで、 λ のとり得る範囲は、 $0 \leq \lambda \leq 1$ である。

【 イェンセンの不等式 】

$$f\left(\sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \quad \cdots (1.115)$$

ここで、 $\lambda_i \geq 0$ および $\sum_i \lambda_i = 1$ である。

【 解 】

数学的帰納法を用いて、凸関数 $f(x)$ に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示す。

(i) $M = 1$ のとき、 $\lambda_1 = 1$, $x_i = a$ とおけることから、

$$\text{式 (1.115) の左辺} = f\left(\sum_{i=1}^1 \lambda_i x_i\right) = f(\lambda_1 x_1) = f(a)$$

$$\text{式 (1.115) の右辺} = \sum_{i=1}^1 \lambda_i f(x_i) = \lambda_1 f(x_1) = f(a)$$

となり、式 (1.115) は満たせた。

(ii) $M = k$ のとき、式 (1.115) が成り立つと仮定すると、 $M = k + 1$ のとき、式 (1.115) の左辺は、

$$\begin{aligned} \text{式 (1.115) の左辺} &= f\left(\sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i x_i\right) \\ &= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + \sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \end{aligned}$$

ここで、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1-\lambda_{M+1}}$ とおくと、上記の式は、

$$= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + (1-\lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

となる。上記の式は式 (1.114) において、 $\lambda = \lambda_{M+1}$, $a = x_{M+1}$, $b = \sum_{i=1}^M \eta_i x_i$ に対応することから、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1-\lambda_{M+1}) f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

... ※

となる。ここで、仮定より、

$$f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

が成り立つので、式 ※ は、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

となり、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}}$ だから、

$$\begin{aligned} &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}} f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \frac{1}{1 - \lambda_{M+1}} \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i f(x_i) \\ &= \text{式 (1.115) の左辺} \end{aligned}$$

よって、 $M = k + 1$ のときも式 (1.115) は成り立つ。

以上 (i), (ii) より、数学的帰納法において、 $M \geq 1$ の整数において、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せた。

演習問題 1.38

数学的帰納法により、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せ。

【 凸関数に関する不等式 】

$$f(\lambda a + (1-\lambda)b) \leq \lambda f(a) + (1-\lambda)f(b) \quad \cdots (1.114)$$

ここで、 λ のとり得る範囲は、 $0 \leq \lambda \leq 1$ である。

【 イェンセンの不等式 】

$$f\left(\sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \quad \cdots (1.115)$$

ここで、 $\lambda_i \geq 0$ および $\sum_i \lambda_i = 1$ である。

【 解 】

数学的帰納法を用いて、凸関数 $f(x)$ に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示す。

(i) $M = 1$ のとき、 $\lambda_1 = 1$, $x_i = a$ とおけることから、

$$\text{式 (1.115) の左辺} = f\left(\sum_{i=1}^1 \lambda_i x_i\right) = f(\lambda_1 x_1) = f(a)$$

$$\text{式 (1.115) の右辺} = \sum_{i=1}^1 \lambda_i f(x_i) = \lambda_1 f(x_1) = f(a)$$

となり、式 (1.115) は満たせた。

(ii) $M = k$ のとき、式 (1.115) が成り立つと仮定すると、 $M = k + 1$ のとき、式 (1.115) の左辺は、

$$\begin{aligned} \text{式 (1.115) の左辺} &= f\left(\sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i x_i\right) \\ &= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + \sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \end{aligned}$$

ここで、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1-\lambda_{M+1}}$ とおくと、上記の式は、

$$= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + (1-\lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

となる。上記の式は式 (1.114) において、 $\lambda = \lambda_{M+1}$, $a = x_{M+1}$, $b = \sum_{i=1}^M \eta_i x_i$ に対応することから、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1-\lambda_{M+1}) f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

... ※

となる。ここで、仮定より、

$$f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

が成り立つので、式 ※ は、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

となり、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}}$ だから、

$$\begin{aligned} &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}} f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \frac{1}{1 - \lambda_{M+1}} \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i f(x_i) \\ &= \text{式 (1.115) の左辺} \end{aligned}$$

よって、 $M = k + 1$ のときも式 (1.115) は成り立つ。

以上 (i), (ii) より、数学的帰納法において、 $M \geq 1$ の整数において、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せた。

演習問題 1.38

数学的帰納法により、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せ。

【 凸関数に関する不等式 】

$$f(\lambda a + (1-\lambda)b) \leq \lambda f(a) + (1-\lambda)f(b) \quad \cdots (1.114)$$

ここで、 λ のとり得る範囲は、 $0 \leq \lambda \leq 1$ である。

【 イェンセンの不等式 】

$$f\left(\sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \quad \cdots (1.115)$$

ここで、 $\lambda_i \geq 0$ および $\sum_i \lambda_i = 1$ である。

【 解 】

数学的帰納法を用いて、凸関数 $f(x)$ に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示す。

(i) $M = 1$ のとき、 $\lambda_1 = 1$, $x_i = a$ とおけることから、

$$\text{式 (1.115) の左辺} = f\left(\sum_{i=1}^1 \lambda_i x_i\right) = f(\lambda_1 x_1) = f(a)$$

$$\text{式 (1.115) の右辺} = \sum_{i=1}^1 \lambda_i f(x_i) = \lambda_1 f(x_1) = f(a)$$

となり、式 (1.115) は満たせた。

(ii) $M = k$ のとき、式 (1.115) が成り立つと仮定すると、 $M = k + 1$ のとき、式 (1.115) の左辺は、

$$\begin{aligned} \text{式 (1.115) の左辺} &= f\left(\sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i x_i\right) \\ &= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + \sum_{i=1}^M \lambda_i x_i\right) \end{aligned}$$

ここで、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1-\lambda_{M+1}}$ とおくと、上記の式は、

$$= f\left(\lambda_{M+1} x_{M+1} + (1-\lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

となる。上記の式は式 (1.114) において、 $\lambda = \lambda_{M+1}$, $a = x_{M+1}$, $b = \sum_{i=1}^M \eta_i x_i$ に対応することから、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1-\lambda_{M+1}) f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right)$$

... ※

となる。ここで、仮定より、

$$f\left(\sum_{i=1}^M \eta_i x_i\right) \leq \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

が成り立つので、式 ※ は、

$$\leq \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \eta_i f(x_i)$$

となり、 $\eta_i = \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}}$ だから、

$$\begin{aligned} &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \sum_{i=1}^M \frac{\lambda_i}{1 - \lambda_{M+1}} f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + (1 - \lambda_{M+1}) \frac{1}{1 - \lambda_{M+1}} \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \lambda_{M+1} f(x_{M+1}) + \sum_{i=1}^M \lambda_i f(x_i) \\ &= \sum_{i=1}^{M+1} \lambda_i f(x_i) \\ &= \text{式 (1.115) の左辺} \end{aligned}$$

よって、 $M = k + 1$ のときも式 (1.115) は成り立つ。

以上 (i), (ii) より、数学的帰納法において、 $M \geq 1$ の整数において、凸関数に関する不等式 (1.14) から式 (1.15) が導かれることを示せた。